

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101960		
法人名	社会福祉法人旭川荘		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	岡山県岡山市北区祇園866		
自己評価作成日	令和 6年 2月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370101960-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 3月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する旭川敬老園との連携のもと、安心してその人らしい生活が継続できるよう、一人ひとりの利用者の個性や状態に応じた専門的介護サービスを提供している。自然に囲まれた環境で季節を感じながら、穏やかに笑顔多く過ごしていただけるよう配慮している。また、入居者一人一人が、役割を持ち自分のペースで生き活きと生活できる環境づくりに務めている。利用者だけでなく、ご家族にとっても安心できる場であることを目指している。可能な限りはなみずきで生活が送れるように配慮しているが、入居者にとって適切な生活が確保できなくなってきた場合は、家族と話し合い納得した形で敬老園への住み替えを提案している。大きく環境の違う場所ではなく住み慣れた地域や環境で入居者もご家族も安心していただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幅広い医療福祉ニーズに対応する社会福祉法人旭川荘を母体を持つホームで、隣接する医療機関や高齢者施設と連携を図りながら、要介護の高い入居者も排泄の自立支援、移動時は容易に車椅子に頼らないケア等、専門的な介護サービスの提供に努めています。今年2月に特別養護老人ホーム(敬老園)の1階に拠点を移し、機械浴や共用フロアのトイレ個数、居室の広さ等、設備面の充実が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が家庭的な雰囲気の中で、安心して心豊かに「尊厳」を維持して過ごせるよう、専門的な介護サービスを提供している。生活を共にしながら、機能低下を防ぎ、少しでも心身ともに「自立」へ向けた支援を行っている。	法人内の各種研修や職員会議を通じて、職員への意識付けを図っています。今年度は管理者の交代や建物の移転等、運営体制に大きな変化が生じています。	新体制において、改めてホームの理念や管理者のビジョンを共有する事で、職員一丸となった入居者の心豊かな暮らしの実現に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類へと移行し、面会の予約制は継続したが、時間の制限はほぼ無くなった。運営推進会議には地域包括支援センターの方も参加してもらい、地域の情報交換を図っている。また、昨年荘内の祭りに入居者家族とともに外出し、外食をした。	月1回、近隣の遊歩道散策に訪れる保育園の園児たちが当ホームに立ち寄り、入居者との挨拶、手を握り合う等の交流があります。管理者の働きかけによって、ホーム移転後も関わりが継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広義の地域貢献…後継者育成の一助(実習生の積極的受入)を担っている。介護学生の実習生受入を行った。狭義の地域貢献…運営推進会議のメンバーに地域の民生委員を加え、さらに今年度からは地域包括支援センターも加え、認知症ケアについてや地域の情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症感染予防の為、隣接の特養の大きなホールを借り開催をした。会議の内容…①事業所の現状報告②参加者からの質問・要望に対する回答③評価への取り組み状況の報告④その他。意見は職員会議で報告、共有しサービス向上に結びつける努力をしている。	地域包括支援センター職員や地域住民、入居者家族など様々な関係者が出席しています。平日開催にした事で、参加できる入居者家族は減った事もありますが、和やかな雰囲気の中、現状の報告や意見交換が行なわれている様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策を始め、書類関係での問い合わせは何度も行い指導を受けた。運営推進会議を平日開催にすることで2か月に1回は口頭で情報交換を行うことができています。	運営推進会議を通じて、認知症の啓発活動や地域における感染症流行状況等の情報提供があります。運営上の不明点はその都度連絡を取り、必要な助言・指導を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束禁止のことは当然のことと認識していて、研修等を通じ具体的な行為についても理解している。	入居者からの声に対して「ちょっと待って」と返事をする事は、入居者の行動を抑制する虐待と捉えています。もし待たせてしまう場合には、具体的な理由と所要時間を伝える様に配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の基本理念は利用者の「尊厳」を守ることであり、その事を徹底しているので虐待は考えられない。加えて管理者は職員に疲れ、ストレスが溜まらないように勤務配慮、コミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は成年後見制度についての研修に参加してはいるが、書籍等で成年後見制度について理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	令和5年度は、契約解除2件と締結1件があったが事業所の方針、家族との連携、ケア内容等を契約書、重要事項説明書に沿って説明し納得を得ている。電話で事前に説明をし、対面で再度を説明した。その後書面を送付し改定等の理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは、毎日のコミュニケーションを通じ要望を吸い上げている。コロナが5類に移行して以降、面会の制限を解除している。ご家族からは普段のコミュニケーションを交えながらご意見や相談等伺っている。また、利用料等持参時を利用し意見・要望を伺っている。また、運営推進会議でもその機会がある。	「〇〇が食べたい」「出掛けたい」等、入居者の要望を汲み取り、生活に反映しています。家族には直接対話する機会に意見要望を尋ね、入居契約時に公的な相談窓口の紹介も適切に行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行ない、意見交換を行っている。協議内容は事業所運営、入居者のサービスに反映させている。	子育て等、家庭の事情を考慮した柔軟な雇用形態(就労時間)で、働きやすい職場環境作りに努めています。10年以上勤務しているベテラン職員も多く、人材が定着している様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には時給に反映させ励みとしている。職員個々の個性を活かせるよう役割分担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は大きな研修に参加することが困難だったため、荘内研修やウェブ研修に参加して職員会議での伝達研修に切り替え少しでも研修できるようにした。また、事故発生時には口頭やノートにて注意喚起や必要に応じて個別に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敬老園との合同の研修会などに参加し、はなみずき以外の方と交流できる機会をつくっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者を中心に、介護者は日頃からコミュニケーションを通して関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までのご本人との関係、ご家族の不安や要望をお聞きした上で、施設として『出来る事』『不可能なこと』『努力してみること』『家族に協力してもらいたいこと』等を率直に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でご本人・ご家族等から得た情報を元に、職員間で情報共有し、支援計画作成をしている。サービス開始後は、修正点を会議で検討し、サービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一部でも「出来る事」を強みと捉え、食事の準備・盛り付け・味見・片付け等の可能な部分や洗濯物たたみ、掃除、庭の手入れ等日常生活全般において少しでも出来ることを利用者と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時及び定期的に、日常生活の様子をご家族に伝え、主として家族にしか出来ない精神的支柱の部分を家族の役割として協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については制限をなくしている。また、ご家族と一緒に外出する機会を設け交流を図った。	面会が遠のいている、家族だけでは車に乗せられない等の声から家族との外出を企画し、関係継続の支援に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者・職員全員が、日常生活の多くの時間をリビングで過ごすため、意識することなく常に会話があり、自然に入居者同士の関わり合い・人間関係もできている。テーブルやソファでの席に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高くなり退所となったり特養へ移られた方は様子伺いをするなどしている。特養からのケアについての問い合わせについて答えたり、こまめに住み替え後の様子の報告を受けスタッフに伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の思いや意向の把握に努めている。また、ご家族からの情報の下、ご本人の趣味・嗜好等を取り入れ、日常生活に生かせるよう努めている。	居室担当の職員が中心となり、入居者に深く関わりながら希望や意向の把握に努めています。趣味・嗜好を取り入れ、囲碁・将棋やビーズ、アルバム鑑賞等、一人ひとりの暮らしに添った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族との話し合いの中から、過去の体験や現在の思いを汲み取った支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの1日の出来事・状態、関わりを記録し、職員全体で共有している。また、日課を作らず、利用者の状態、意向の中から1日の過ごし方が自然に行われている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議での話し合いや部屋担当からも話を聞いて、利用者の日常生活の中からニーズを把握し、モニタリング資料も加えたものを検討、更にご家族の意見も伺いながら介護計画を作成している。	独自のアセスメントツールを活用し、多角的に入居者の課題抽出に取り組んでいます。職員会議でケアに関する意見を出し合い、統一したケアが提供出来る様に現状に即した計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化や暮らしの様子を日誌・個人記録・申し送りノート等の記録や職員会議での意見交換から、職員が情報共有し、日々の介護に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設規模が小さく小回りがきくため、家族と連携した柔軟な取り組みがその時々で出来る環境下にある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は基本的な感染予防は行いながらも、制限なく過ごし、隣の特養の行事に参加させてもらった。職員や実習生と近隣を散歩し、四季の移り変わりを楽しんだり地域の人との関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎週の回診、又、特変時にはその都度往診を依頼するか通院している。また、回診時以外で体調不良があった場合はオンコールで対応、指示してもらえる。	同法人の嘱託医が主治医となっています。定期的な往診と、敷地内の医療センターで各専門領域の診療が受けられる環境が整っており、入居者、家族の安心感に繋がっています。(必要に応じて、訪問看護や訪問歯科も利用する事が可能です)	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さないように、毎日バイタルチェックを行い、早期発見に取り組んでいる。体調変化があれば、主治医や訪問看護ステーションへ連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法に関する情報提供を行う。お見舞いができない為、病状の把握が困難ではあるが退院が近くなったと連絡があった場合、こまめに連絡し情報収集に努め、都度、職員に情報を伝達して退院日に向けて準備をしている。看護師・医師、リハ職等から、直接話を聞いたり指導を受け、得られた情報は、職員間で共有し退院後、職員もご本人・ご家族も不安なく適切なケアができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のあり方について説明、納得していた。終末期には、本人・家族の意向を重く受け止め、随時、家族・医療機関と連携をとり、施設としてできる限りの対応が取れるような体制としている。体調に変化があった場合には都度、嘱託医とご家族とで面談を行い、状態の説明や今後の過ごし方について面談をしている。ADL低下がみられた場合は隣接の敬老園より作業療法士を派遣してもらい車いすの選定、ポジショニングの検討等を依頼し一緒にケア内容の見直しをしている。	終末期支援では医師を交え、本人家族と段階的に話し合いを重ねながら支援を行っています。作業療法士にポジショニングについて助言をもらう等、より良い支援に向けてチームで取り組んでいる様子が窺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを作成し、食中毒・インフルエンザ等の予防の周知徹底を図っている。又、救命救急法の研修会にも随時、参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に法人・併設施設と合同で利用者とともに、防災訓練(地震・水害・消火器)を実施している。	火災想定避難訓練に加え、地震や水害等の自然災害を想定した防災訓練も実施しています。事業継続計画(BCP)を早期に作成し、訓練を通じて運用や内容の見直しに取り組んでいる様子が見受けられます。	ホーム移転後の状況を踏まえ、災害発生時にも入居者と職員の安全を確保し、最低限の介護サービス提供が維持できる事業継続計画の効果的な運用に期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の生活歴、性格等を考慮し、言葉遣いに注意を払っている。また、個人情報の管理を徹底し、プライバシーに関わるような内容・話題には触れないようにしている。	自分だったらどうか、を念頭にコミュニケーションを図り、特に排泄の事は耳元で伝える等、徹底しています。個人ファイルは施錠できる所に保管し、ホールでも記録物は棚に収納する等、情報管理も徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々に合わせた声掛けをし、話しやすい雰囲気づくりをしている。特に口数が少ない方には表情などにも留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースは異なっているので入居者本位の観点から何かを強要するようなことはしていない。その日の状態を把握し、穏やかに過ごせるよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着用の洋服は一緒に選び、おしゃれ感覚を失わないようにしている。また、日々の整容には留意している。化粧も自ら出来なくなっても起床時に職員が化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・味付け・片付け等の可能な部分と一緒に行なっている。また、利用者同士の関係性を十分に配慮した席の配置とし、どの利用者も楽しく食事できるように心がけている。また、季節や行事に合わせた食材や献立を取り入れている。	昼食はホームのキッチンで調理しています。週1回、おやつ作り(ケーキ、どら焼き等)や外出する「お楽しみ日」を作っています。また、移動販売や敷地内の売店で入居者が直接商品を選ぶ機会があり、食への楽しみに繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない方には、食べたいものを食べたいときに召し上がって頂けるようにしている。又、水分摂取には特に注意し必要量の確保に努めている。家族にも摂取状況等、こまめに報告し必要に応じて栄養補助食品やジュース等の嗜好品の購入依頼をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者は訪問歯科を利用し定期的に専門的なフォローを受けている。職員もブラッシング等について指導を受け個々の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。その他の一部の入居者に関してはご家族の付き添いで歯科受診行っている。また、介護用品(スポンジブラシやポイントブラシ等)はご家族に必要性をご説明し購入していただいている。就寝前に義歯は洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なっている。さりげなく声掛けし、自尊心を傷つけないよう配慮している。会議等で、失敗が多くなった入居者に関してはトイレ誘導の時間の検討等をし、必要に応じて紙下着等の提案を行いご本人やご家族にも説明し納得した上で安心していただける支援（又はサービス提供）を行っている。	介護度の高い入居者も日中1回は必ずトイレに座る機会を設けています。100歳の方も習慣化する事でトイレで自然な形で排泄が出来、また排泄用品使用の入居者はそれぞれ適切な物をその都度検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないようにする為、繊維質の多い食材を使用した副菜やヨーグルトをメニューに入れている。水分補給にも気を付けて、自然排便を促すようにリラックスをしてトイレへ座れるようにしている。緩下剤も利用しているが、排便状況を観察し嘔吐医と服薬回数や量を相談してこまめに調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が拒否されたり、前日の不眠、体調不良の場合を除き、概ね2日に1回を基本に入浴を行なっている。入浴出来ない時は、清拭や足浴などの対応を行なっている。	移転した事で機械浴等の設備が充実し、ゆったり湯船に浸かる事ができます。脱衣室・浴室共に暖房機器があり、温度差による不快感やヒートショック予防への配慮も見受けられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂・居間過ごされる方が多いが、ベッドで横になられる方もおられる。日中は状況に合わせて1人掛けソファに座っていただき下肢の挙上・保温等行い、リラックス出来るように配慮している。夜間、寂しさを訴える方には、話し相手になり寂しさ・不安を取り除いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作成し、回診・通院で変更があれば申し送りノートに記入し、職員全体で把握するようにしている。また、服薬時は職員が必ず立ち会い確実な服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若いころの経験を活かし、家事・庭の手入れ・洗濯物たたみ等を役割としてされている。また、塗り絵、トランプ、歌、散歩など、その方が好きな楽しみの時間を過ごすことができるようにしていて時に職員も一緒に入れてもらい楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、食材や衣類を買いに出かけたり、ご家族と一緒に荘内のお祭りに参加するため車で外出し、外食をして帰った。また、普段の生活では受診の帰りなど利用し荘内を散歩や買い物をして花等を見て気分転換が図れるよう配慮している。	定期的に外出や散歩へ出掛けており、入居者が季節を感じられる機会を設けています。お弁当や握り寿司を注文して外出先で食べる等、気分転換が図れるように工夫した取り組みが見受けられます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所でお預かりし、一緒に買い物等の場合は、ご本人の財布を持って出かけ楽しんでいただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時、必要時には職員と一緒に電話するように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、機の配置等に気を配っている。席に配慮することで落ち着いて過ごすことができるようにしている。	移転によって環境が大きく変わった為、トイレの目印を貼る等、混乱の軽減に又ホールは意図的に家具等で空間を区切って、視覚的な情報量の軽減にも配慮しています。入居者一人ひとりにとっての不安や刺激を取り除き、居心地良く過ごせる為の工夫が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	変化するその時々、利用者の気持ち、利用者間の人間関係を察知し、過ごしていただく場所を変えて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・寝具・装飾品などを持ってきていただいている。新たに必要となった場合は、ご家族に説明して持ってきていただくようにしている。	障子や木目調の天井といった和風空間に、馴染みの家具や寝具を持ち込み、どの居室も温かみの感じられます。基本介護ベッドを準備していますが、入居者に合わせて畳に寝具を敷いた対応も可能で、環境作りへの配慮が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札、トイレに表示をつけて場所を確認できるようにしている。ベッドの位置や、家具の配置を工夫することで、安全に歩行できるようにしている。		